

出エジプト記の並行集中構造

2010/11/21 Society of Biblical Literature

Hajime Murai

Assistant Professor

Department of Value and Decision Science

Tokyo Institute of Technology

概要

1. はじめに
2. 出エジプト記の並行集中構造
 - a. 最長の構造
 - b. 三分割構造
 - c. 四分割構造
 - d. 七分割構造
 - e. 他の聖書テキストでの並行集中構造
3. 結論

聖書における修辞構造

- 聖書のテキスト中には、キアスムス(交差配列)、集中構造、パラレリズムス(並行法)などの修辞構造が多数存在する
- 幾人かの研究者は聖書中のいくつかのテキストでテキスト全体にわたる大きな修辞構造があると主張している
- しかし、これらの種々の修辞構造に対して明確で体系的な理論は未だ構築されていない

並行集中構造仮説

- 一つのテキスト全体は特定の数の部分に分割可能である (ペリコーペ)
- これらの部分が数的に規則的な形で修辞構造を形作る
 - 分割しない場合、テキスト全体として最長の集中構造となる
 - 三分割可能な場合には、三つの部分それぞれが集中構造となる
 - 四分割可能な場合にも、四つの部分それぞれが集中構造となる
 -

出エジプト記における最長の集中構造

1:1-7	エジプトからの主の救い	↔	40:34-38	幕屋に満ちる神の栄光
1:8-14	ピトムとラメセスの建設	↔	40:1-33	幕屋の建設
1:15-22	男子殺害の命令	↔	35:4-39:43	幕屋建設の準備
2:1-10	川から引き上げられるモーセ	↔	34:27-35:3	安息日厳守の命令
2:11-15	エジプトからの逃亡	↔	34:10-26	戒めの再授与
2:16-22	モーセの結婚	↔	33:18-34:9	主の栄光
2:23-25	イスラエルへの主の憐れみ	↔	33:12-17	民と共に行かれる主
3:1-4:17	燃える芝	↔	33:7-11	臨在の幕屋
4:18-31	モーセエジプトに戻る	↔	32:1-33:6	金の子牛の鑄造
5:1-23	ファラオの会見	↔	31:12-18	安息日の規定
6:1-12	主の救出の命令	↔	25:1-31:12	幕屋建設の命令
6:13-27	系図	↔	24:1-18	民との契約、70人の長老
6:28-7:7	アロンの役割	↔	20:22-23:33	契約の書
7:8-10:29	アロンの杖・九の災い	↔	20:1-21	十戒
11:1-10	最後の災い	↔	19:20-25	モーセがシナイ山に上る
12:1-28	過ぎ越し	↔	19:10-19	主がシナイ山に下る
12:29-32	初子の死	↔	19:1-9	シナイ山到着と民の約束
12:33-41	エジプトを去る	↔	18:1-27	舅エトロの訪問
12:42-51	過ぎ越しに参加できる者の規定	↔	17:8-16	アマレクとの戦いで勝利
13:1-2	初子の奉献の規定	↔	17:1-7	メリバの泉
13:3-10	除酵祭の規定	↔	16:1-36	マナ
13:11-16	初子の奉献の規定	↔	15:22-27	マラの水とエリムの泉
13:17-22	民の出発	↔	15:20-21	ミリアムの歌
14:1-18	エジプト軍の追跡	↔	15:1-19	海の歌
14:19-31	エジプト軍から救われる神		14:19-31	エジプト軍から救われる神

最長構造における対応関係

- 下記参照

- http://www.valdes.titech.ac.jp/~h_murai/bible/02_Exodus_1.html

出エジプト記における最長の集中構造

エジプト
に従う



主に
従う

14:19-31 エジプト軍から救われる神

14:19-31 エジプト軍から救われる神

出エジプト記での三分割集中構造

1	エジプトからの主の救い		49	幕屋に満ちる神の栄光
2	ピトムとラメセスの建設		48	幕屋の建設
3	男子殺害の命令		47	幕屋建設の準備
4	川から引き上げられるモーセ		46	安息日厳守の命令
5	エジプトからの逃亡		45	戒めの再授与
6	モーセの結婚		44	主の栄光
7	イスラエルへの主の憐れみ		43	民と共に行かれる主
8	燃える芝		42	臨在の幕屋
9	モーセエジプトに戻る		41	金の子牛の鑄造
10	ファラオの会見		40	安息日の規定
11	主の救出の命令		39	幕屋建設の命令
12	系図		38	民との契約、70人の長老
13	アロンの役割		37	契約の書
14	アロンの杖・九の災い		36	十戒
15	最後の災い		35	モーセがシナイ山に上る
16	過ぎ越し		34	主がシナイ山に下る
17	初子の死		33	シナイ山到着と民の約束
18	エジプトを去る	32	舅エトロの訪問	
19	過ぎ越しに参加できる者の規定	31	アマレクとの戦いでの勝利	
20	初子の奉獻の規定	30	メリバの泉	
21	除酵祭の規定	29	マナ	
22	初子の奉獻の規定	28	マラの水とエリムの泉	
23	民の出発	27	ミリアムの歌	
24	エジプト軍の追跡	26	海の歌	
25	エジプト軍から救われる神	25	エジプト軍から救われる神	

三分割構造における対応関係

- 下記参照

- http://www.valdes.titech.ac.jp/~h_murai/bible/02_Exodus_3.html

出エジプト記での三分割集中構造

1 エジプトからの主の救い

エジプト
からの
脱出

9 モーセエジプトに戻る

エジプトで： 移民から出発まで

17 初子の死

シナイ
山への
道

25 エジプト人から救われる神

砂漠で： エジプト → 紅海 → シナイ山

33 シナイ山到着と神の約束

シナイ
山にて

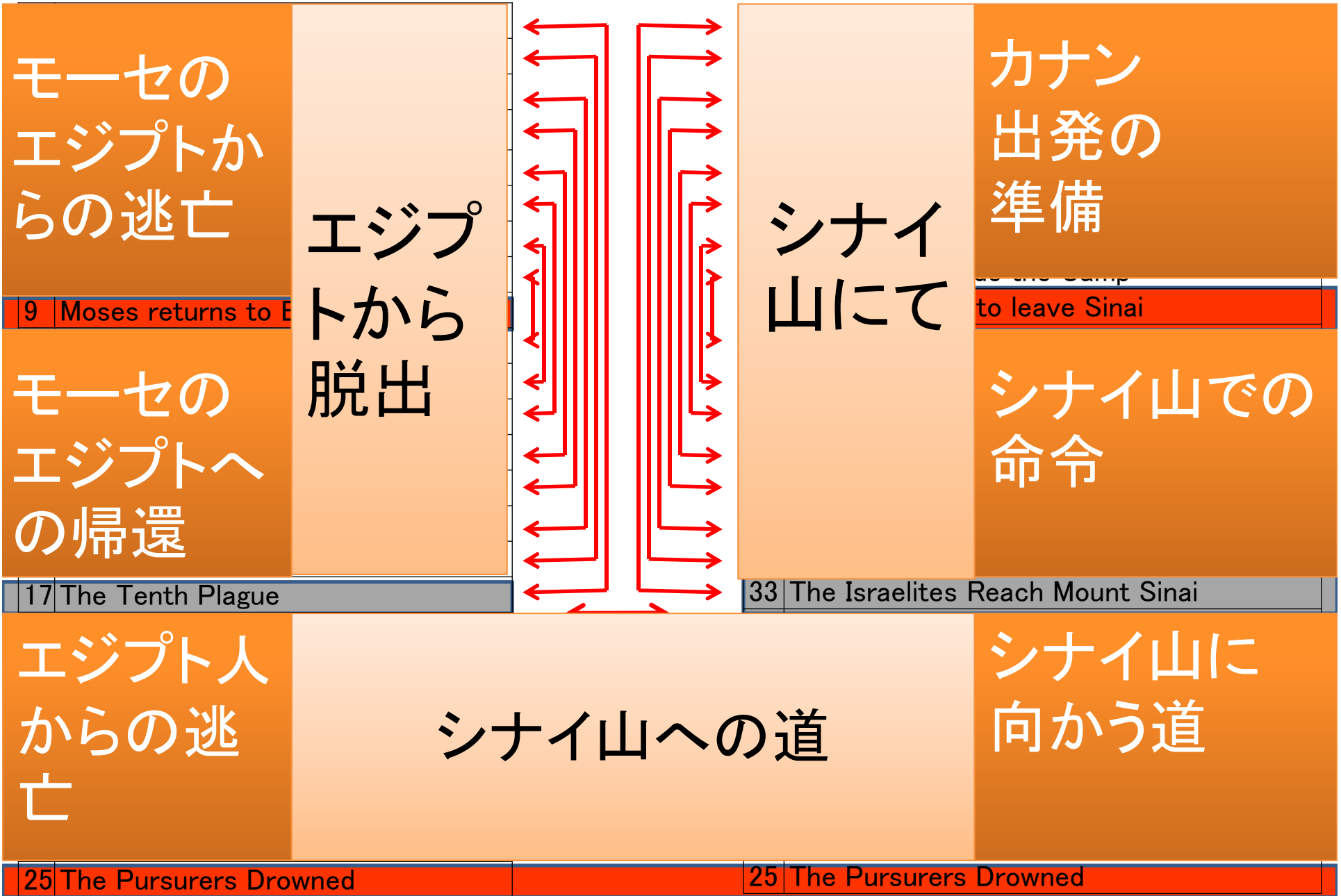
41 金の子牛の鑄造

シナイで： シナイへ到着 → シナイ出発 → カナンへ出発

49 幕屋に満ちる神の栄光

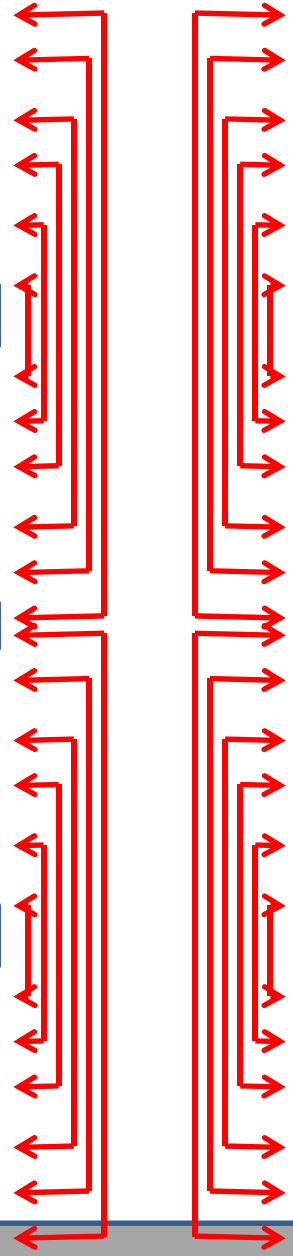
分割と中心のペリコーペは主に、土地の移動とその分岐点に関連している

出エジプト記での三分割集中構造



出エジプト記での四分割集中構造

1	エジプトからの主の救い		
2	ピトムとラメセスの建設		
3	男子殺害の命令		
4	川から引き上げられるモーセ		
5	エジプトからの逃亡		
6	モーセの結婚		
7	イスラエルへの主の憐れみ		
8	燃える芝		
9	モーセエジプトに戻る		
10	ファラオの会見		
11	主の救出の命令		
12	系図		
13	アロンの役割		
14	アロンの杖・九の災い		
15	最後の災い		
16	過ぎ越し		
17	初子の死		
18	エジプトを去る		
19	過ぎ越しに参加できる者の規定		
20	初子の奉獻の規定		
21	除酵祭の規定		
22	初子の奉獻の規定		
23	民の出発		
24	エジプト軍の追跡		
25	エジプト軍から救われる神		
49	幕屋に満ちる神の栄光		
48	幕屋の建設		
47	幕屋建設の準備		
46	安息日厳守の命令		
45	戒めの再授与		
44	主の栄光		
43	民と共に行かれる主		
42	臨在の幕屋		
41	金の子牛の鑄造		
40	安息日の規定		
39	幕屋建設の命令		
38	民との契約、70人の長老		
37	契約の書		
36	十戒		
35	モーセがシナイ山に上る		
34	主がシナイ山に下る		
33	シナイ山到着と民の約束		
32	舅エトロの訪問		
31	アマレクとの戦いでの勝利		
30	メリバの泉		
29	マナ		
28	マラの水とエリムの泉		
27	ミリアムの歌		
26	海の歌		
25	エジプト軍から救われる神		



四分分割構造における対応関係

- 下記参照

- http://www.valdes.titech.ac.jp/~h_murai/bible/02_Exodus_4.html

出エジプト記での四分割集中構造

イスラエルをエジプトから導き出す命令

1 エジプトからの主の救い

7 イスラエルへの主の憐れみ

召命：民を名で呼ぶ

エジプトでの奇跡

13 アロンの役割

19 過ぎ越しに参加できる者の規定

救済：奴隷からの解放

主がイスラエルの神となる

25 エジプト軍から救われる神

31 アマレクとの戦いでの勝利

契約：主がイスラエルの神となる

幕屋建設の命令

37 契約の書

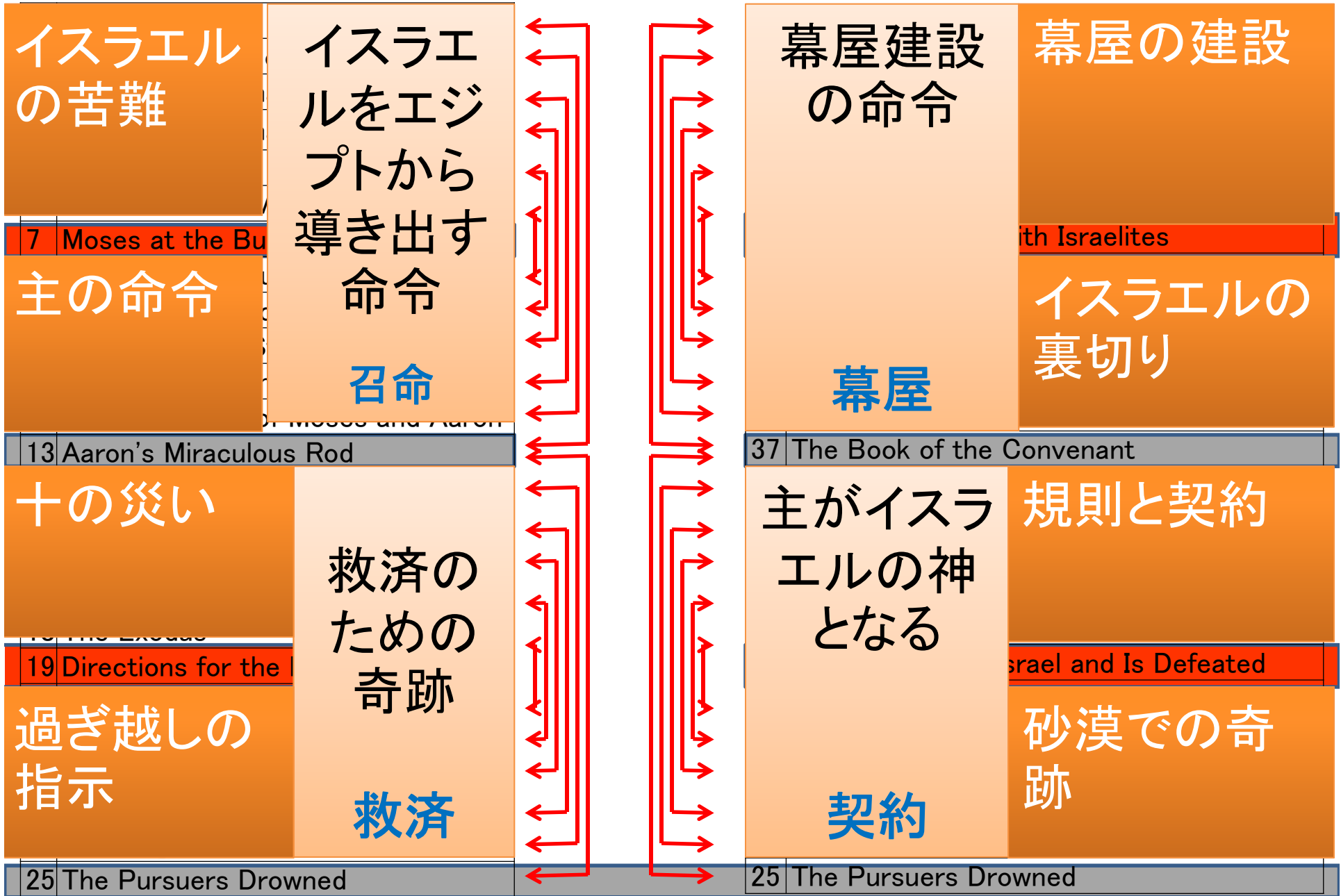
43 民と共に行かれる主

幕屋：主がイスラエルと共に行かれる

49 幕屋に満ちる主の栄光

修辭的構造は主に、イスラエルが神の民となる過程に関連している

出エジプト記での四分割集中構造



出エジプト記での七分割集中構造

1	エジプトからの主の救い		49	幕屋に満ちる神の栄光
2	ピトムとラメセスの建設		48	幕屋の建設
3	男子殺害の命令		47	幕屋建設の準備
4	川から引き上げられるモーセ		46	安息日厳守の命令
5	エジプトからの逃亡		45	戒めの再授与
6	モーセの結婚		44	主の栄光
7	イスラエルへの主の憐れみ		43	民と共に行かれる主
8	燃える芝		42	臨在の幕屋
9	モーセエジプトに戻る		41	金の子牛の鑄造
10	ファラオの会見		40	安息日の規定
11	主の救出の命令		39	幕屋建設の命令
12	系図		38	民との契約、70人の長老
13	アロンの役割		37	契約の書
14	アロンの杖・九の災い		36	十戒
15	最後の災い		35	モーセがシナイ山に上る
16	過ぎ越し		34	主がシナイ山に下る
17	初子の死		33	シナイ山到着と民の約束
18	エジプトを去る		32	舅エトロの訪問
19	過ぎ越しに参加できる者の規定		31	アマレクとの戦いでの勝利
20	初子の奉獻の規定		30	メリバの泉
21	除酵祭の規定		29	マナ
22	初子の奉獻の規定		28	マラの水とエリムの泉
23	民の出発	↔	27	ミリアムの歌
24	エジプト軍の追跡	↔	26	海の歌
25	エジプト軍から救われる神	↔	25	エジプト軍から救われる神

出エジプト記の並行集中構造の概要

- **最長構造**
 - 中心ペリコーペは“エジプト軍から救われる神”(14:19-31)
 - エジプトでの**奴隷労働**が主への**奉仕**に変わる(abd)
- **三分割構造**
 - 各構造は**イスラエルの民の旅路**に対応している
エジプト -> **砂漠** -> **シナイ山**
- **四分割構造**
 - 各構造は**救済の過程**に対応している
召命-> **救済** -> **契約** -> **幕屋**
- **七分割構造**
 - 各構造はより詳細な主と民との関係に対応している
(主が共に行く、民の不信仰、救済のための奇跡、奴隷労働からの解放)

他の聖書テキストでのペリコーペ数

• 創世記	81
• 出エジプト記	49
• レビ記	25
• 民数記	49
• 申命記	49
• ヨシュア記	31
• 士師記	31
• サムエル記 1, 2	81
• 列王記 1,2	81
• 歴代誌 1,2	49
• エズラ・ネヘミヤ記	25
• イザヤ書	81
• エレミヤ書	81
• エゼキエル書	49
• ゼカリヤ書	25
• 箴言	31
• 詩編	121
• ヨブ記	25
• コヘレトの言葉	25

• マタイ	145
• マルコ	85
• ルカ	145
• ヨハネ	49
• 使徒行録	49
• ローマ書	31
• 1コリント書	25
• 黙示録	81

ペリコーペ数と分割可能な並行集中構造

- **145**: マタイ, ルカ
 - $3 \times 48 + 1$, $4 \times 36 + 1$, 5×29 , $9 \times 16 + 1$, $12 \times 12 + 1$
- **121**: 詩編
 - $3 \times 40 + 1$, $4 \times 30 + 1$, $5 \times 24 + 1$, $6 \times 20 + 1$, $8 \times 15 + 1$, 11×11
- **81**: 創世記, サムエル 1 2, 列王記 1 2, イザヤ, エレミヤ, マルコ, 黙示録
 - 3×27 , $4 \times 20 + 1$, $5 \times 16 + 1$, 9×9
- **49**: 出エジプト記, 民数記, 申命記, 歴代誌 1 2, エゼキエル, ヨハネ, 使徒行録
 - $3 \times 16 + 1$, $4 \times 12 + 1$, 7×7
- **31**: ヨシュア, 士師記, 箴言, ローマ書
 - $3 \times 10 + 1$, $5 \times 6 + 1$
- **25**: レビ記, エズラネヘミヤ記, ゼカリヤ書, コヘレトの言葉, 1コリント書
 - $3 \times 8 + 1$, $4 \times 6 + 1$, 5×5

ペリコーペ数は **整数の二乗**に関連していると考えられる

結論と今後の課題

- 多くの聖書テキストで並行集中構造が発見された
- これらの構造は何らかの神学的意味を示唆するものと考えられる
- 今後の課題
 - どれだけのテキストがこのような構造を持つのか?
 - これらの構造は**偶然**なのか**意図的**なのか?
 - ペリコーペ分割の妥当性の検討が必要
 - ほぼすべてのペリコーペがそれ自体として修辞構造となっていることが確認できている
 - 対応関係の計量的な評価も必要
 - 統計的有意性に基づく小出現頻度の単語とフレーズの対応ペアによる評価を行った
 - 詳細はこちらなどを参照, Hajime Murai, "Exegetical Science for the Interpretation of the Bible: Algorithms and Software for Quantitative Analysis of Christian Documents", Springer International Publishing, Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distributed Computing Studies in Computational Intelligence, Volume 492, pp 67-86, 2013.